

あつまれ、あつまれ

原 瑞季

私の家では小さい頃から、食事のマナーについて、そこまで厳しく言われてきたわけではないが、それでも、ご飯を残すことだけはしつこく言われてきた。

お茶碗にお米が一粒でも付いていると、隣に座っている祖母から「あつまれ、あつまれをしなさい。」と言われ、全て食べてしまいうまでは、ごちそうさまをすることかできなかつ

た。また、精米をすする前のお米をこぼしたときは一粒残らず全て拾わなければいけないか、と。なせ、お米を残してはいけないのか聞くと、祖母は決まっています、世界にはごはんを食べられない人もいるのに、ご飯を毎食食べられる私たちがお米を粗末にしてはいけないと、か、た、た、一粒のお米にたくさんの時間と手間がかかかっているといつも私に言うのだ。このように、私は小さい頃からしつこく言われてきたので、お米は一粒も残したことが

お米は、お茶碗一杯で約四千粒といわれ
ている。私のクラスは四十人で、例えば、
全員が十粒ずつ残すと、たった十日でお茶
碗一杯分になり、一か月で二杯を残すこ
ととなる。たったの十粒か、た。

私は、米農家の方が、時間をかけて一
生懸命作ったお米が、あつまれ、あつま
れ”するの、か面倒だという理由で、最
後まで食べないのは、良くないと思
う。

このように、世の中の一部の人には、
感謝を持って食べることを忘れてしま
っている人がいる。

確かに、食べ物を食べることに感謝を
持つのは大変である。しかし、食事を
する前、食事をした後には、食べ物に感
謝をしてほしい。そして、たった一瞬
だけでも、それを作ってくれた人のこ
とを考えてほしい。その子供に、お米
は一粒も残さずに食べるように教え
よう。と思う。

そ
う
私
の
祖
母
の
よ
う
に
あ
つ
ま
れ
あ
つ
ま
れ
し
な
さ
い
と